

名誉教授田中克彦著作目録(抄)

【論文】(著書に収録されなかったもののみを挙ぐ)

- 一九六〇年 十七世紀モンゴル史書シャラ・トージとその周辺『一橋研究』第六号(修士論文の抄録である本篇はソ連邦科学アカデミー・シベリア支部紀要 Материалы по истории и филологии Центральной Азии Улан・Уде 一九六二年において詳しく紹介された)

- 一九六一年 Subhāṣṭaratanidhi のモンゴル語訳について『一橋論叢』四五卷六号

カザフスタンの文化活動家——チョカン・ワリハーフのこと『一橋研究』第七号(このささやかな一篇は、「ロシア語版になってアルマアタで出版され、同共和国の科学界に大きな関心を持っている」とタス通信は報じた(一九六三年五月二七日アルマアタ発——『アカハタ』六月三日付)。タス通信はさらに続けて、「日本の学者田中氏は、ワリハーフに関する出版物をほとんどもらさず利用し、多方面にわたるその活躍を客観的にとらえている」と賞賛しているが、それほどのものでもない。しかし、ワリハーフについて外国で書かれたほとんど唯一の論文であり、今もそうであろう。)

- 一九六二年 アルタイ語の指尺語彙について『民族学研究』二六卷第四号

- 一九六三年 ゲセル物語のモンゴル語書写版諸版の相互関係について『一橋論叢』五〇卷一号

一九六四年

ブリヤート口承ゲセル物語にあらわれた二つの文化層『民族学研究』二九巻三号
モンゴル、中央アジアにおけるインド起源の難題モチーフの伝播について『東京外国語大学論集』一一号

一九六八年

戦後日本における言語学の状況『文学』九月号

一九七一年

北方系神話について『文学』一一号(一九七七年 伊藤清司・大林太良編『日本神話研究1 日本神話の世界』学生社に収録)

一九七二年

『言語学と言語的現実』『思想』二月号

一九七三年

モンゴル神話と日本神話(大林太良編『日本神話の比較研究』法政大学出版局 所収)

一九七五年

科学論としてのソビエト言語学論争(『言語における思想性と技術性』エネルゲイア刊行会 所収)

一九七七年

カランダーシ——借用の構造(金子幸彦編『ロシアの思想と文化』恒文社 所収)
モンゴルにおける乳製品をあらわす語彙について『一橋論叢』三月号

一九七九年

北方民族のシャニズム(『講座 日本の民俗宗教4 巫俗と俗信』弘文堂 所収)

一九八〇年

Leo Weisgerberと社会言語学——いかに私はWeisgerberを読むか(『ドイツ語教育部会会報』一八)

一九八八年

言語・エトノス・国家(『言語とコミュニケーション』東京大学出版会 所収)

一九八九年

The Ideology of National and State Language, *Huotsubashi Journal of Social Studies*, Vol. 21, No. 1

一九九四年 アガ草原をめざして(岩波書店編『わたしの海外旅行術』岩波同時代ライブラリー 所収)

アウスバウ(造成)のなかの民族(黒田悦子『民族の出会いたち』朝日選書 所収)

一九九六年 国語の形成(岩波講座『現代社会学5 知の社会学/言語の社会学』 所収)

一九九七年 言語学の日本的受容——ガーベレンツ、ソシュール、上田万年——(田中、山脇、糟谷編『言語・国家、そして権力』「ライブラリ相関社会科学4」新世社)

【著書】

一九七一年 『草原と革命』 晶文社(一九八五年・新版、恒文社)

一九七三年 『草原の革命家たち——モンゴル独立への道——』 中公新書三一(一九九〇年・増補新版)

一九七五年 『言語の思想——国家と民族のことば——』 NHKブックス二四六

一九七八年 『言語からみた民族と国家』 岩波現代選書一三(一九九一年・岩波同時代ライブラリー八二)

一九八〇年 『ことばの差別』 人間選書三七、農山漁村文化協会

一九八一年 『ことばと国家』 岩波新書一七五

一九八三年 『法廷にたつ言語』 恒文社(一九九二年・増補新版『ことばの自由をもとめて』福武文庫)
『チョムスキー』二十世紀思想家文庫二、岩波書店(一九九〇年・岩波同時代ライブラリー二九)

一九八五年 『現代ヨーロッパの言語』 岩波新書二九二(H・ハールマンと共著)

一九八九年 『国家語をこえて』筑摩書房(一九九三年・ちくま学芸文庫)

一九九二年 『モンゴル―民族と自由』岩波同時代ライブラリー一〇二

一九九三年 『言語学とは何か』岩波新書三〇三

『ことばのエコロジー』人間選書一六八、農山漁村文化協会

一九九六年 『名前と人間』岩波新書四七二

【翻訳】

一九六七年 ワルター・ハイシツヒ『モンゴルの歴史と文化』岩波書店

一九六七・六九年 バダムハタン『フブスグル地方のトナカイ遊牧民の生活形態のあらまし』その一、その二、『北アジア民族学論集』第四集、第六集 北アジア民族学研究会 金沢

一九七一年 ウノ・ハルヴァ『シャマニズム―アルタイ系諸民族の世界像』三省堂(一九八九年・新版)

チョイバルサン他『モンゴル革命史 附・スヘバートルの生涯』未来社

一九八一年 エウジエニオ・コセリウ『うつりゆくこそ ことばなれ―サンクロニー・ディアクロニー・ヒストリア』(かめいたかしと共訳)クロノス

一九九六年 メンヒエンルヘルフェン『トゥバ紀行』岩波文庫